



“ハイドロタービン 32 46 68” —ローヤル油機—

油圧作動油・タービン油・マシン油を兼用OK

1. 耐摩耗性があり、油圧・軸受・マシンに最適
2. 小さな油圧装置に最適です。
3. 空圧機器の潤滑
4. 印刷機械や小さな機械の差し油にご使用ください。

荷姿:1Lポリ 4Lポリ



「LOYAL物語」 4

営業の仕事を終えて家に戻ると、夕餉の支度をしていた母から『タダヨシ、今しがたデンベエ（屋号）のカズオさんから電話があつて電話欲しいそうだよ』

『はい、分かりました』

早速ダイヤルを回した。受話器の向こうからいつもの口調が帰ってきた。

『さつき、北郷がら電話があつて土曜日午前中仕事で皆と一緒に行けねって言うんだ。お前一緒に乗せて来てくんねが。』

『うん、いいですよ。んだけんどもどごさ迎えに行けばいいの』

『おめなあ、彼女の勤めでどごさぐれえ覚えどげよ。平のガス会社だよ。わがんだっぺ』

『はい、分かります』

『そごさ、お昼過ぎだら迎えに行げ、門の前に立ってるように言つとぐがら。忘れんじゃねえぞ』

『はい、分かりました』

嬉しさと気恥ずかしさで、何故かこそばゆい気持ちになっていた。

『眩しい横顔』

◇ 彼女は、通用門の前で卓球用具が入った大きなかばんを抱えてわたしの来るのを待っていた。まだどこかにあどけなさが残る二十二歳の乙女だった。

『待ったかい』

『いいえ、わたしも仕事を終えて今出てきたばかりですから』

『そうか、それは良かった。お客さんのところに納品があつて遅れたので慌てて来たよ』

『そんなに慌てないでください。事故なんか起こしたら大変ですから』

『そうだな、気をつけるよ』

中学生だった頃のイメージしかなかったわたしには、社会に出てずいぶん大人になったなあというのが第一印象だった。

途中で車を止め、二人で川の流れるにある小さな滝を眺めた。高校時代も卓球をやっていたせいか、細身の身体に紺色のセーターと白いスカートが似合っていた。

夕日に照らされた横顔が、若葉のように眩しく光っていた。

☆ あとがき ☆



肩の痛みがとれず、とうとう卓球をあきらめロードバイク（自転車）に転向することにしました。慣れた通勤自転車と違い、最初はとても怖かった。

相棒の新妻君に指導を受けながら徐々に距離を伸ばしています。桧原湖 1 周 (35km)、天神岬 (60km)、クマガイ草見学 (100km) と脚力にも自信がついてきました。次回は、サンシャインロード 60km に挑みます。